

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人OCC

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	幼児教育学科	夜・通信	49			49	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ上、教育情報の公開のシラバス項目にて公開している。
<https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人OCC

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上にて公開している。
<https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/houjin.php>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	一般社団法人研究基盤 協議会 理事	2025.5.28～ 2029.5.27	全般
非常勤	ネオラント(株)	2025.5.28～ 2029.5.27	全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人OCC

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)には、授業の方法、授業の概要、授業のテーマ及び到達目標、授業回数分の授業計画、試験あるいはレポート提出等の成績評価の方法、評価基準、事前学習と事後学習に関する指示等を記載している。 また、当該科目が実務家教員担当である場合は、授業担当者の実務家としての現場経験を活かして、将来保育の職に就く受講者に今日的な課題を実践的に取り上げ教授する旨が記載している。 シラバス作成にあたって、開講前年度1月上旬までに教学課から授業担当者に作成依頼を行う。授業担当者がwebシラバス入力を終えた後、教学課が記載内容のチェックを行う。その後、2月から3月にかけて、学長指名による第三者の教員が「シラバス作成のガイドライン」に沿って作成されているかチェックを行う。これらのチェックを通して修正等も発生し、完成したものが4月に公開される。シラバスは本学webページで公開している。	
授業計画書の公表方法	ホームページ上にて公開している。 https://occ-web.campusplan.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1900/3000120/wsl/SyllabusKensaku
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスに各科目の成績評価の方法と評価基準を明記している。学修成果の評価を秀、優、良、可、不可と学則に規定しており、可以上で単位修得を認定している。 成績評価は、学科試験、レポート、テスト、課題発表等により行う。シラバスに到達目標とその達成度に対する評価を明記している。 また、客観的指標(ルーブリックの導入等)により、教員は客観的な方法・基準に基づいて評価することとしている。 在学の間履修する「卒業研究」については、担当教員各々がシラバスを作成し、評価基準も示している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学生は、ポータルサイトにログインし、自らの単位修得状況と GPA といった成績情報を確認できる。また、学期ごとに保証人へ、GPA も記載された成績表を送付している。 GPA の算出方法は、全学生に配付している「要覧」に記載している。各科目の成績評価を GP に換算し、この GP に科目ごとの単位数を掛けた値の合計を、履修登録した単位数の合計で割った値を GPA とする。 $\text{GPA} = \frac{(\text{GP} \times \text{単位数}) \text{ の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$ 学生には 2 種類の GPA を提示している。学期毎の修得単位で算出した学期 GPA と、全ての修学期間の修得単位で算出した累積 GPA を示している。 また、GPA に関しての分布グラフを毎年度、作成しており、本学 web ページで公開している。前年度の GPA 分布グラフを参照して、学生は自身の成績がどの位置にあるか客観的に知ることができる。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	「要覧」に記載、ホームページ上「教育情報の公開、GPA 制度に関する規程」で公開している。 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業要件を記載した「要覧」を学生に配布している。教育目的等を文章で列挙するとともに、具体的な必要単位数を明記している。教養基礎科目と専門教育科目それぞれの必要単位数、必要合計単位数を示している。 また、同じく「要覧」に記載している履修指針表では、科目ごとの単位数や卒業必修科目とその単位数などを示している。 これらは本学 web ページの「教育情報の公開」にて公開している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	「要覧」に記載 公開 URL: 教育方針 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/ 卒業要件 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/ 履修指針表 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人OCC

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/
財産目録	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/
事業報告書	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/
監事による監査報告(書)	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/houjin.php
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:	https://www.occ.ac.jp/guidance/college/
-------	---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 幼児教育学科
教育研究上の目的（公表方法：教育情報の公開） https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/
（概要） ＜幼児教育学科の教育目的・目標＞ キリスト教精神に則り、現代社会の多様な要請に応え、個性を尊重する保育を実現する専門性の高い社会人の育成を目的とする。 私たちの教育は、一人ひとりの命を尊び人格として尊重することを大切にし、真理を探究し続ける意思を育て、豊かな人間性の育成を目指しています。 そのため、学生が、教育・保育の専門的知識・技能を身に付け、学問や実践を通して確かな思考力・判断力・表現力を培い、自ら考え誠意を尽くし、他者と協働してよき社会人、保育者となるための教育を行います。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：「要覧」に記載、ホームページで公開） 教育方針 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/ 卒業要件 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/ 履修指針表 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/
（概要） 卒業要件を記載した「要覧」を学生に配布している。教育目的等を文章で列挙するとともに、具体的な必要単位数を明記している。教養基礎科目と専門教育科目それぞれの必要単位数、必要合計単位数を示している。 また、同じく「要覧」に記載している履修指針表では、科目ごとの単位数や卒業必修科目とその単位数などを示している。 これらは本学 web ページの「教育情報の公開」にて公開している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページで公開） https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/
（概要） 卒業や免許・資格取得のために、学びの体系性と系統性をもって科目を配列する 本学では開設科目を①教養・基礎の学び ②専門の学び ③実践の学びの 3 つのカテゴリーで分類し、2 年間または長期履修 3 年間での学びの体系とそれぞれの科目の相互の関連をカリキュラムツリーで系統的に示しています。2 年間または長期履修 3 年間の学びでは①教養・基礎の学びを土台の学びとして位置付けます。それらの基礎の上に、教育・保育・教育テックに関する②専門の学びが体系的に配列されています。③実践の学びでは、①②の積み重ねの総まとめとしての科目や実習が配列されています。 教育課程は入学から卒業までの時系列の中でそれぞれの科目の系統だった配置がなされ、ディプロマポリシーに示す資質能力の獲得や免許・資格の取得を目指します。 ① 教養・基礎の学び 本学の建学の精神に示されるキリスト教的人間観に基づく、人格の土台としての学びや人間と社会、教育・保育に関する原理などの学び、基本知識を広げる科目群です。 教養基礎の学びとして必修科目の「聖書と現代人」や「情報機器演習 1」を配列し、保育の基礎の学びとして必修科目の「教育原理」「保育原理」などを配列しています。 本学独自科目としてはこども学コースに「キリスト教保育」、教育テックコースに「こどもビジネス論」を配列しています。

② 専門の学び

教育・保育、福祉、教育テックに関する専門的な学びの科目群です。子どもに関するさまざまな支援の内容と方法に関する専門的な知識・技能を身に付けるために、講義及び実践演習や対話などを重視しながら学びます。教育・保育内容に関わる専門の学びとして「保育内容総論 1」「保育心理学」、「こども家庭福祉」「教育課程論」「幼児と健康」「幼児と人間関係」「幼児と環境」「幼児と言葉」「幼児と表現」などが配列されています。

それぞれのコースではより深い学びのための特色ある科目を用意しています。こども学コースでは、「キリスト教保育」「こどもと遊び 1」「こどもと遊び 2」「観察実習」「ライフマネジメント論」をコース推奨科目として配列し、そのほか、「ピアノ(基礎)」「ピアノ伴奏」「うた」「こどもとアート 1」などを配列しています。教育テックコースでは、「教育テック実学 1」「教育テック実学 2」「教育テック実学 3」「教育テック実学 4」を軸として、「DX 社会学」「SDGs 論」などをコース推奨科目として配列しています。

自由選択の認定絵本士の称号を得る科目として「こどもと絵本 1」「こどもと絵本 2」が配列されています。

③実践の学び

「教養・基礎の学び」及び「専門の学び」で身に付けた価値観や知識、技能を活かして各自の学修課題を解決し、社会や保育現場で活用するための、総まとめとして「卒業研究」を位置づけています。免許および資格取得に関わる科目として「教育実習(幼稚園)」「保育実習 1(保育所)」「保育実習 1(施設)」「保育実習指導 1(保育所)」

「保育実習指導 1(施設)」などの実習科目が配置されています。「卒業研究」「保育・教職実践演習(幼稚園)」では知識・理解と共に現場体験、地域のボランティアやチームでの教育・保育の取り組みによって、社会や子どもを取り巻く現代的な諸問題を学び、他者と協働して問題解決等に取り組む能力や奉仕の精神を育成します。

それぞれのコースではより深い実践として職業体験を得られる科目を用意しています。こども学コースでは、「観察実習」、長期履修生にはこれに加えて、学外実習につながるものとして「インターン実習 1」「インターン実習 2」を配置しています。教育テックコースでは、「インターンシップ」を配置しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生募集要項、ホームページで公開）

https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/ad_policy.php#top

（概要）

- ・ 本学の幼児教育学科の目的及び教育目標を理解し、子どもや子どもを取り巻く環境について学ぶ意欲のある人
- ・ 他者を尊重し、コミュニケーションを大切にしようとする人
- ・ 自らの健康管理に努め、豊かな表現力を発揮し、実践から学ぼうとする人
- ・ 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けた人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
	－	4 人	5 人	5 人	人	人	1 4 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		5 4 人					5 4 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://www.occ.ac.jp/guidance/teachers/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2 0 2 5 年度実績							
・昨年度は「IR 推進の取組みについて」をテーマに開催し、今後の本学における IR の発展に向け、教員と職員が連携する「教職協働」の重要性を改めて共有した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
幼児教育学科	167人	130人	77.8%	334人	321人	96.1%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	167人	130人	77.8%	334人	321人	96.1%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
幼児教育学科	146人 (100%)	2人 (1.4%)	133人 (91.1%)	11人 (7.5%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項） 幼稚園・保育園・認定こども園等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画（シラバス）には、授業の方法、授業の概要、授業のテーマ及び到達目標、授業回数分の授業計画、試験あるいはレポート提出等の成績評価の方法、評価基準、事前学習と事後学習に関する指示等を記載している。 また、当該科目が実務家教員担当である場合は、授業担当者の実務家としての現場経験を活かして、将来保育の職に就く受講者に今日的な課題を実践的に取り上げ教授する旨が記載している。 シラバス作成にあたって、開講前年度1月上旬までに教学課から授業担当者に作成依頼を行う。授業担当者が web シラバス入力を終えた後、教学課が記載内容のチェックを行う。その後、2月から3月にかけて、学長指名による第三者の教員が「シラバス作成のガイドライン」に沿って作成されているかチェックを行う。これらのチェックを通して修正等も発生し、完成したものが4月に公開される。 シラバスは本学 web ページで公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) シラバスに各科目の成績評価の方法と評価基準を明記している。学修成果の評価を秀、優、良、可、不可と学則に規定しており、可以上で単位修得を認定している。 成績評価は、学科試験、レポート、テスト、課題発表等により行う。シラバスに到達目標とその達成度に対する評価を明記している。 また、客観的指標（ルーブリックの導入等）により、教員は客観的な方法・基準に基づいて評価することとしている。 在学の間履修する「卒業研究」については、担当教員各々がシラバスを作成し、評価基準も示している。 これらは本学 web ページの「教育情報の公開」にて公開している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	幼児教育学科	6 2 単位	有 無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：ホームページに公開 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに公開

https://www.occ.ac.jp/campus_life/campus-map-2/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	幼児教育学科 (2年制)	800,000 円	250,000 円	412,500 円	教育施設充実費 270,000 円 休学中在籍料 53,500 円
	幼児教育学科 (長期履修生) 1年生	540,000 円	250,000 円	334,000 円	教育施設充実費 220,000 円 休学中在籍料 38,000 円
	幼児教育学科 (長期履修生) 2年生 3年生	540,000 円	250,000 円	296,000 円	教育施設充実費 200,000 円 休学中在籍料 37,000 円
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 大阪キリスト教短期大学給付制奨学金 本学独自のものとして、(A) 本学の課程を修業年限内で卒業する見込みがあり、経済的困窮が認められる者に対して、申請された学期の授業料の半額を給付する。1年後期分より申請可、学期ごとに審査、各学期につき在籍数の10%以内。(B) 本学において卓越した成績をおさめ、他学生の模範となる優秀な学生に対して、申請された学期の授業料・教育施設充実費・実習費の半額を給付する。2年前期分より申請可、学期ごとに審査、各学期につき1名。 また、入学後、諸事情により学費を納付期間内に納付できない場合、「学費延納・分納制度」も設けています。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・入学後すぐに始まるキャリアサポート 幼児教育70年の経験と実績を活かし一人ひとりの想いを実現させるため、入学した時点から就職指導を始めています。学生一人ひとりにマッチした就職に向け、しっかりサポートします。 ・キャリアセンター 将来や就職について、疑問や不安をなんでも相談できるキャリアセンターがあります。国家資格キャリアコンサルタントをはじめ、経験豊富なスタッフが一人ひとりの個性や希望に応じた支援を行っています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、学生の皆さんが有意義で充実した学生生活を過ごせるよう、保健室と学生相談室がそれぞれ心身の健康サポートを行っています。保健室には看護師が常駐しており、普段のけがや病気の応急手当はもちろん、身体の悩みや日頃の不安などについて一緒に考える「心身の健康管理」を担っています。また、学生相談室では、学生生活の中で生じる行き詰まりや不安、どこに相談してよいか迷うような事柄まで、どんな小さな気がかりでも気軽に話し合える体制を整えています。このように、それぞれの窓口が学生一人ひとりに寄り添い、充実した学生生活を送れるようお手伝いをしています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページで公開している https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F227310108419
学校名（〇〇大学 等）	大阪キリスト教短期大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人〇〇〇

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		75人（ 47 ）人	72人（ 42 ）人	80人（ 48 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	24人	26人	
	（うち多子世帯）	（ － 人）	（ － 人）	
	第Ⅱ区分	14人	11人	
	（うち多子世帯）	（ － 人）	（ － 人）	
	第Ⅲ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（ － 人）	（ － 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	14人	13人	
	区分外（多子世帯）	19人	16人	
家計急変による 支援対象者（年間）				人（ ）人
合計（年間）				80人（ 48 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	— 人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	— 人
計	人	0人	— 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	人	— 人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	— 人	— 人
計	人	— 人	— 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。